

一般質問

令和4年 3月定例会



障がい児支援を広げて

戸谷 ひとみ 議員

Q 障がい児支援の拡充を

近年増加傾向にある特別支援学校や特別支援学級の利用者数と割合、その推移について説明を求めます。

放課後等デイサービス事業所を設置するには、利用者が10人を割ると経営的に難しいと聞いた。放課後子ども教室や長期休暇中の児童クラブと同様に、町が支援すべきではないか。強い意志があれば、専門的な職員も必ず見つかる。

放課後等デイサービスを設置するか、放課後子ども教室や長期休暇中の児童クラブで、障がいのある子どもを受け入れる体制をつくるか、どちらかの対応が必要ではないか。

また、4つの小学校と2つの中学校を集約することで、障がい児への支援を拡充できるのでは。

A 県平均の倍以上

教育長 大谷 哲也

令和3年度は特別支援学校に在籍している児童生徒は2人。令和4年度には3人になる。

特別支援学級については、小学校では令和3年度は9学級16人。児童数の割合は8.7%。令和4年度は10学級16人。児童数の割合は8.8%と微増する。中学校では、令和3年度は4学級9人、生徒数の7.3%。令和4年度は5学級9人、生徒数の8.8%であり増加傾向にある。

県の場合は3%程度なので、飯南町は支援を要する児童生徒の割合が高いという状況にある。



移動支援事業を使って出雲へ通う児童とサポートする運転手

A 移動支援事業を充実させる

町長 塚原 隆昭

事業所を設置するには、児童発達支援管理責任者・指導員等高度な専門知識のある職員が必要で、町内では困難である。「社会福祉法人雲南広域福祉会」でも放課後等デイサービスの運営に苦労している。

来年度より、移動支援事業を使って本町から出雲養護学校へ通う児童がいる。出雲市内の放課後等デイ

サービス事業所も利用する。

保護者の協力も得ながら、移動支援事業を充実させることで対応したい。

令和4年度からは飯南町にふさわしい教育環境の在り方について検討を始める。これだけの理由で統合ということではないが、障がい児への支援という課題もあるという点は承知の上で議論していく。

その他に、ワクチン接種など児童福祉について4点の質問があった。

新年度の最重要課題は

高橋 英次 議員



Q 一年間の感想と新年度への課題は

コロナ禍での町長就任のスタートであったが、5つの重点施策を町民に示している。

・子どもの声が聞こえるまちづくり

・安心・安全なまちづくり

・産業が元気なまちづくり

・定住を進めるまちづくり

・歴史・文化を感じるまちづくり

の5点である。

実施した事業には、新型コロナウイルス対策としてワクチン接種や、町民や町内事業所への各種支援事業の実施。また、豪雨・台風による甚大な災害の早期復旧に向けての取り組み、米生産農家への次期作応援金の交付など、目標とする5つの重点施策に沿った事業の展開であったが、これまでの1年間を振り返った感想と、新年度に向けた最重要課題を問う。

A コロナ対策と災害対応の1年

町長 塚原 隆昭

コロナ禍において、住民生活に直結した支援が直ちに必要と考え、ふるさと宅配便・元氣回復券・プレミアム商品券・第2次雇用継続応援金を実施した。

また、早期のワクチン接種に向け準備を行い、高い接種率を得た。医療従事者の方には感謝している。

7月には甚大な豪雨災害が発生し、国交省・県・土地改良連合会など外部機関から人的応援をいただいた。各方面からの、義援金・寄附金・ふるさと納税などの金銭面での支援や、事業所からの物資の提供、町内建設業者による迅速的な応急対応もしていただいております、すべてに感謝している。

コロナ対策と災害対応に追われ、本当に忙しく、あつという間の1年だった。

新年度の最重要課題としては、基本的には昨年の豪雨



災害復旧工事

災害の災害復旧だ。業者にもお願いし、特に農地災害を最優先する。

定住では、住宅の整備として、新たに町産材を使用した住宅への支援を進める。

教育では、教育環境基本方針の検討があり、学校運営の在り方を検討する。

安心安全なまちづくりに

アの推進と、飯南病院の医体制確保もある。

1年後に9期介護計画が始まるが、介護施設では人材不足が一番の問題であり、重点的に取り組む。

全体的には、子育て施策・教育環境の充実を丁寧な情報発信し、人口増に繋がらない。